

神奈川県考古学会

考古かながわ 第38号

《巻頭言》

神奈川県考古学の夢

会長 岡本 孝之

神奈川県でも考古学をめぐる場は、大きく変化しようとしている。県行政が主導してきた発掘調査実施機関は、変化することを提示されている。考古学にとっても、不透明な時代に突入している。

明日さえ不透明な現代を克服する方法、理念として、縄文時代が評価されることが多い。環境の激変などによる食料危機の到来は、だれもが心の底で恐れていることではないだろうか。東北のある考古資料館で、ボランティア活動の主婦から、子供に縄文の生き方、食料獲得の方法を学ばせようとするのは、はっきりとそれに備えるためと、聞かされて驚いたことがある。

しかし、小学校教育の場から縄文文化、縄文社会のあり方、生き方の学習は、除外されている。排除されるからこそ、それゆえに明らかにしなければならぬと強く思う。

教育から隠そうとする縄文文化と、今日的社会の開始でもある弥生文化の差異は大きい。縄文から弥生への変化こそが重要な課題であり、私にとっては、これが弥生時代の研究、西相模考古学研究会の活動に結びついている。

弥生以後の古代社会は、国家の形成として達成される。神奈川県では下寺尾寺院跡、千代寺院跡、宗元寺、影向寺、弘明寺などの顕現としてある。古代の相模を考える会に参加する由縁である。

さらに、神奈川は鎌倉幕府の場であり、中世か

ら近世を切り開いた秀吉の小田原城攻撃の現場であったし、近世から近代へと転換した開港の場であったのだ。考古学は、原始から近代までをトータルにみることができる学問なのである。このような考古学の特性を利用し、時代研究会、地域研究会の枠をこえた議論の場を形成したいと思う。

しかし、肝心の縄文文化研究において、先輩諸氏による縄文時代の基礎データが引き継がれていないという事実、貝塚の所在すら不明のものが多いという事実、考古学という学問の未成熟さを知るのである。この事実の認識が、考古学史研究に向わせ、神奈川の貝塚に学ぶ会の活動となる。そして、考古学史は近代の考古学を必要とする。

神奈川県考古学会は、神奈川県遺跡調査研究発表会を基礎として、普及啓発事業に力をいれてきた。見学会や講演会の開催、連絡誌「考古かながわ」の発行、考古学講座の開催などを実施してきた。『考古論叢神奈河』では、神奈川の考古学研究を表現してきた。

いろいろな機会を有機的に活用して、このような神奈川の特性をもっと明らかにしたいと思う。研究活動をもっと盛んにせよと、岡本勇先生、寺田兼方先生は言われる。会員とともにすすめて行きたい。最後に10年以上も神奈川県考古学会を指導されてこられた、前会長の寺田兼方先生と副会長の伊東秀吉先生に感謝申し上げたい。

2007 年度総会 開催報告

4月23日(土)、2007年度の総会をかながわ労働プラザで開催しました。ここに総会の内容を報告します。

会則に則り、寺田会長を議長に選出した後、以下の議事が総会に諮られました。

議事1 2006 年度事業報告

(総会) 総会を2006年5月20日、横浜市歴史博物館にて開催。

(役員会・幹事会) 2006年4月26日、5月11日、7月19日、8月23日、9月20日、10月18日、11月15日、2007年1月16日、3月20日の合計9回を開催。

(会誌) 『考古論叢神奈河』第15集を2006年3月31日に刊行。

(連絡誌) 『考古かながわ』36号(10月)、37号(3月)を刊行。

(講座) 2006年12月3日、かながわ県民センターにて「古代史再発見」と題して開催。参加者は約115名。

(見学会) 県内における史跡、遺跡等の見学会として小田原市・史跡小田原城跡(馬出門柵形石垣 2006年9月2日)、横須賀市・猿島・第2海堡と夏島・野島貝塚をめぐるクルージング(2006年10月28日)にて見学会を開催。

(発表会) 第30回神奈川県遺跡調査・研究発表会を2006年10月28日に横浜市開港記念会館で開催。

平塚市の万田貝殻坂遺跡、小田原市の千代南原遺跡、鎌倉市の若宮大路周辺遺跡の調査報告が行われました。またテーマ発表として「神奈川の遺跡調査をめぐる30年」として、近代～旧石器時代までの、最新情報を交えた調査事例が報告され、神奈川県の発掘調査の様相が紹介されました。

また記念講演として会長の寺田兼方さんにより『「第30回神奈川県遺跡調査・研究発表会」を迎えて』と

題した御講演をいただきました。

(15周年記念事業) ホームページを立ち上げ会員への情報の伝達が出来るようにしました。さらに充実した内容を目指します。

(神奈川の文化財の未来を考える会からの要望書)

財団法人かながわ考古学財団廃止方針にかかる要望書の受理(2006年5月20日付)、神奈川県知事及び神奈川県教育委員会教育長あての質問状提出(2007年1月20日付)、同回答書受理(2007年2月26日付)

※本誌5頁に「回答書」を掲載

議事2 2006 年度収支決算報告

別紙のとおり、2006年度の収支決算が報告され、監事からの会計監査報告が拍手をもって承認されました。

議事3 会長及び副会長の選出

寺田兼方会長より退任の申し出があり、新会長を選出することとなりました。2007・2008年度の会長として岡本孝之さんを、また副会長として中村若枝さんをそれぞれ推薦し、満場一致で承認されました。

議事4・5 役員及び監事の承認、顧問の承認について

2006年度をもって現役員の任期が満了となるため、2007・2008年度の会務遂行を担当する役員の改選を行いました。また総会当日、本会の新たな顧問として寺田兼方さんを推薦する議事を提案し承認されました。総会で選出・承認された役員は、さる6月13日の役員会で以下の役割分担で活動してゆくこととなりました。

(顧問) 小出義治、伊東秀吉、寺田兼方

(会長) 岡本孝之

(副会長) 中村若枝

(監事) 松尾宣方、曾根博明

(総務) 宮坂淳一、天野賢一、押木弘己

(会誌) 霜出俊浩、佐藤仁彦、滝沢晶子、川嶋実佳子

(連絡誌) 秋田かな子、中川真人、野口浩史

(講座) 上原正人、明石新、小山裕之、鈴木次郎

(見学会) 渡辺直哉、小滝勉、小川裕久、白勢順子

(発表会) 吉田政行、佐々木健策、阿曾正彦、栗田一生



総会 総会風景

2006年度 収支決算書

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
会費	1,164,000	1,236,000	72,000	旧年度会費 3,000 × 84名 = 252,000 本年度会費 3,000 × 309名 = 927,000 次年度会費 3,000 × 19名 = 57,000
機関誌等売り上げ	600,000	693,370	93,370	発表会要旨 209部 = 168,580 考古論叢 137部 = 241,780 講座要旨 305部 = 283,010
雑収入	5,000	295	▲ 4,705	送料 / 預金利子 / 他 295
繰越金	1,331,746	1,331,746		1,331,746
合計	3,100,746	3,261,411	160,665	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	説明
事務局費	150,000	158,273	8,273	連絡費 103,248 ※連絡費には、2007年度の総会用ハガキ代を含む 会議費 24,553 行事開催費 1,540 賃金 0 会費振込手数料 28,937
会誌費 (15周年記念)	606,000	465,380	▲ 140,620	連絡費 3,630 会議費 0 印刷費 456,750 謝礼 5,000
連絡誌費	190,000	176,255	▲ 13,745	連絡費 113,045 印刷費 63,210 謝礼 0
発表会費 (30回記念)	560,000	490,072	▲ 69,928	連絡費 23,367 会議費 0 行事開催費 46,705 印刷費 420,000 謝礼 0
講座費	358,000	317,462	▲ 40,538	連絡費 3,750 会議費 4,848 行事開催費 37,310 印刷費 246,554 謝礼 25,000
見学会費	95,000	51,014	▲ 43,986	連絡費 41,200 会議費 0 行事開催費 9,814 謝礼 0
15周年記念事業費	60,000	37,800	▲ 22,200	会議費 0 HP開設準備費 37,800 ※サーバー年間(2007.4～2008.3)使用料金
記念事業積立金	750,000	0	▲ 750,000	
予備費	331,746	0	▲ 331,746	
合計	3,100,746	1,696,261	▲ 1,404,381	

* 収入 (3,261,411 円) - 支出 (1,696,261 円) = 次年度繰越金 (1,565,150 円)

議事6 2007年度事業計画案

(総会) 2007年4月28日、かながわ労働プラザにて開催。

(役員会・幹事会) 6月13日以降、おおむね2ヶ月に1回の間隔で年6回程度の開催を予定。

(会誌) 『考古論叢神奈河』第16集を2008年3月に刊行予定。

(連絡誌) 『考古かながわ』38号、39号として年2回の刊行を予定。

会計監査報告

2006年度の収支決算について、金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていることを確認しました。

平成19年4月7日

監事 伊藤 郭
松尾 宣方

※本誌での押印略

2007 年度 収支予算書

(収入の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会 費	1,140,000	1,164,000	▲ 24,000	会費 3,000 × 380 名 = 1,140,000
機関紙等売り上げ	600,000	600,000	0	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売り上げ
雑収入	5,000	5,000	0	預金利子・雑収入等
繰越金	815,150	1,331,746	▲ 516,596	前年度繰越金
合 計	2,560,150	3,100,746	▲ 540,596	

(支出の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
事務局費	170,000	150,000	20,000	連絡費 80,000 会場借上費 30,000 事務費 20,000 行事開催費 10,000 会費振込手数料 30,000 ※ 2006 年 4 月より手数料 1 件 100 円に値上り
会誌費	610,000	606,000	4,000	連絡費 10,000 事務費 10,000 印刷費 580,000 ※ 発送費を含む 謝礼 10,000
連絡誌費	200,000	190,000	10,000	連絡費 100,000 ※ 年 2 回発刊予定 事務費 20,000 印刷費 80,000 ※ 年 2 回発刊予定
発表会費	460,000	560,000	▲ 100,000	連絡費 25,000 事務費 5,000 行事開催費 60,000 印刷費 350,000 謝礼 20,000
講座費	430,000	358,000	72,000	連絡費 10,000 事務費 10,000 行事開催費 100,000 印刷費 290,000 謝礼 20,000
見学会費	95,000	95,000	0	連絡費 70,000 ※ 連絡ハガキ代等 事務費 10,000 行事開催費 5,000 謝礼 10,000
ホームページ 運営費	60,000	60,000	0	事務費 10,000 サーバー使用料 40,000 謝礼 10,000
記念行事積立金	150,000	750,000	▲ 600,000	※ 20 周年記念事業積立金
予備費	385,150	331,746	53,404	
合 計	2,560,150	3,100,746	▲ 540,596	

(講座) 2008 年 3 月 2 日、かながわ県民センターにて開催を予定。テーマ未定。

(見学会) 県内 3 回の見学会を開催予定。

(発表会) 第 31 回神奈川県遺跡調査・研究発表会を 11 月頃に開催予定。

議事 7 2007 年度収支予算案

収支予算書のとおり、上記の事業計画案とともに 2007 年度の収支予算案が審議され、満場一致で拍手により承認されました。

かながわ考古トピックス 2006 の開催

総会の議事終了後、かながわ考古トピックス 2006 を開催し、以下のとおり 4 名の講師による興味深いお話が

ありました。

縄文時代…秋田かな子さん 弥生時代…渡辺 外さん
奈良・平安時代…押木弘己さん 近世…小池 聡さん

今回 3 年ぶりに考古トピックスを開催しました。調査事例として会場の関心を集めることとなりました。遺跡調査・研究発表会とはひと味違った最新の情報を会員の方にお知らせすることが出来ました。

今年度も会員の皆様のご期待に応えられるよう、役員一同、努力して会務の遂行に邁進する所存ですので、会員の皆様からのご支援、よろしくお願ひいたします。

(総務担当役員 宮坂淳一)

財団法人かながわ考古学財団の第三セクター見直しについて（回答）

埋蔵文化財の保護につきまして、日ごろから御尽力いただき感謝申し上げます。

さて、平成 19 年 1 月 20 日付けであなた様から、本県知事及び本職あてに標記質問状を御送付いただきましたが、本県における埋蔵文化財行政を所管しております本職より、別紙により一括して回答させていただきます。

生涯学習文化財課 調整班 田村・埋蔵文化財班 中田・中村町駐在事務所 上田【問い合わせ先省略】

1 財団法人かながわ考古学財団は第三セクター以外の法人を目指すということであるが、平成 22 年度以降は具体的にどのような組織になるのか。

（回答）財団法人かながわ考古学財団は、平成 22 年度内までに第三セクター以外の法人（県の出損のない法人）に移行することとしております。

具体的な法人組織の形態につきましては、現在かながわ考古学財団において、さまざまな選択肢を検討中です。

2 従来、財団が担ってきた仕事はどうなるのか。

(1) 国・県等の事業を原因とする発掘調査は誰が実施するのか。

（回答）民間の発掘調査組織（第三セクター以外の法人に移行したかながわ考古学財団を含む。）が国・県等の事業者と請負契約を結び、神奈川県教育委員会の指導・監督の下で、当該調査を実施することとなります。

(2) 上記の発掘調査によって得られた出土品、調査資料（図書類、写真等）の管理、保管及び活用は誰が実施するのか。

（回答）出土品、調査資料（図書類、写真等）の管理、保管及び活用は、従来通り神奈川県埋蔵文化財センターの業務として県が行います。

(3) 神奈川県埋蔵文化財センターにおける展示室、図書室の利用が従来、財団が施設を管理していたときよりも利用しづらくなっているが、従来のように広く県民に公開することは出来ないか。

（回答）資料等の閲覧を希望する方には、従来通り広く公開しております。なお、今後、より利用しやすいよう、レイアウトや図書室等の利用手続きについて更に工夫してまいります。

(4) 財団が普及啓発事業を受託していたときよりも学校等への出前講座の回数が減っているようであるが、充実を図ることは出来ないか。

（回答）考古学スクールセミナーはこれまで通り学校等の要請に基づき出前講座を行っておりますが、学校等の都合等により実施回数に増減がでてまいります。

今後、学校等に一層積極的に働きかけ、充実を図るよう努めます。

(5) 例年開催されている「かながわの遺跡展」は来年度以降、どのように運営されるのか。県立歴史博物館等のしかるべき施設以外を会場として本年度のように開催されるのか。

（回答）「かながわの遺跡展」は県立歴史博物館で開催することとしております。

3 今後の神奈川県の埋蔵文化財保護行政のあり方について、どのような検討がされ、将来の方向性が考えられているのか。

（回答）神奈川県の埋蔵文化財保護行政については、文化財が貴重な国民的財産であることに鑑み、従来から、文化財保護法の趣旨に基づいて実施しておりますが、今後もこの考え方を堅持してまいります。

なお、国、県等が行う公共事業に係る発掘調査については、現在のかながわ考古学財団への一者随契の仕組みを改め、神奈川県教育委員会の指導・監督の下で民間調査組織（第三セクター以外の法人に移行したかながわ考古学財団を含む。）が実施することとする一方、出土品等の保管・管理、普及啓発等については、従来通り埋蔵文化財センターの業務として、県が責任を持って実施してまいります。

※ 掲載した「回答書」は、本誌紙面に合わせて改行等を調整したものである。【 】内は本誌上で省略したことを示す。字句内容はそのままである。

《寄稿文》

埋蔵文化財調査士誕生、さあ行政はどうする！

村田 文夫

世の中には「潮目」があって、ある一瞬を境に気がつくとも周辺の環境ががらりと様変わりしている。たとえば神奈川県下に地盤をおく前首相が、「官から民へ」と声高に叫ぶと、世の中は一斉に「右向け右」になる。この裏には、暗に「官」は非能率的で、怠惰な集団という前提が含まれているようで、私のような（官）卒業生でも気分はよくない。

そうした個人的な感情はべつにして、たしかにこれまで行政が一手にこなしてきた業務のなかには、むしろ民間企業で実施した方がより適切かどうか検討した方がよい分野がある。ここにあげた埋蔵文化財調査とか、博物館・美術館などの指定管理者制とか、あるいは「官」と「民」の中間に位置づく独立行政法人など、結構私たちのまわりにもこの種の話題に事欠かないことに気づく。しかし、手放しでその流れを座視することもできない。紙幅がかぎられているので、ここではいずれ実現する埋蔵文化財調査士・同調査士補の認定制を受け、さあ行政はどうする！ということ一言述べておきたい。

埋蔵文化財調査士及び同調査士補の制度については、『月刊・考古学ジャーナル』No. 555号の特集号「遺跡を掘る」のほか、平成19年6月15日付けの読売新聞などで簡明に紹介されているので詳しく書く必要はなからう。一言でいえば発掘調査や資料分析・保存などに関わる民間企業88社でつくる「日本文化財保護協会」（代表・戸田哲也）が、所属する調査関係者の知識・技術の向上や人材育成などを図るため、経験年数や実績に応じて埋蔵文化財調査士及び同調査士補を資格認定するというのである。

わたし自身は地方行政に奉職しているとき、上部官庁や研究者から批判を受けつつも一貫して行政職員がおこなう確認・試掘調査以外、本調査は原則的には民間企業を含む外部機関で実施するよう行政指導してきたので、民間企業の参入にはもとより抵抗感はない。それよりも、民間企業が質的な向上を明確にかかげて自主的な努力を傾けているとき、文化財行政こそこれをどう評価し受け止めるのか、と余計な心配をしたくなる。

言うまでもなく、予算を含む発掘調査の全体計画や細部仕様のチェック、現場の安全管理などは、文化財行政側の職権にも当然含まれている。上記の業務は、事業機関（事業者）・調査機関（調査団）と文化財行政側とが事前協議し、そして現場はうごくのである。そうした協議のあり、豊富な実績をもち埋蔵文化財調査士として正式に認定された人と、失礼ながら埋蔵担当という以外の職務権限をもたない人との間で協議は円滑にいくのであろうか。

若手・中堅のいわゆる行政内研究者は、文化財保護主事のような公的制度化を模索し、真摯に研究を重ねてきた。それが実現できなかった背景も仄聞している。しかし現行の文化財行政は、「地方分権」を錦の御旗にして、地方の文化財は地方で守れ、の一声で文化庁から地方公共団体に丸投げ。そして実務は市町村教育委員会が事実上所掌させられている。市町村教育委員会では、発掘件数の減少にあわせて埋蔵担当の専門的職員や予算を削減、または文化財行政とあまり脈絡のない部署に異動させられたりしている。

人間、還暦をすぎると、思考も確実に子供にもどる。そうした冷ややかな視線を十分覚悟で青臭い議論をふっかければ、埋蔵文化財調査士などの制度誕生の機会をとらえて、行政側こそ所掌すべき職域を明確にし、百戦錬磨の埋蔵文化財調査士と緊張感をもって協議できるような体制づくりを確立してほしい。そのためには、担当職員が行政内・外で主張できるよう「文化財主事」など明確な位置づけが必須であろう。一部で使用する、博物館法から無断借用した「学芸員」などの呼称では、所詮陳腐感は拭えない。

過去は文化庁の意向をにらみつつ制度的な議論をしてきた。結果、頓挫した。さいわい(!)、文化庁は文化財行政を実態的には地方行政へ丸投げした。これを逆手にとって地方行政は叡智をしばって独自の制度を編み出せばよいではないか、と言いたい。わたしは埋蔵文化財調査士制度の誕生は、保護協会側から地方教育行政への挑発なり、と明確に捉えている。

われわれは、これまで劈頭にふれた二者択一的な皮相的議論にだまされて、幾度となく問題の本質を見誤ってきた歴史をもっと真摯に学習すべきである。

役員を受けて

川嶋実佳子

今年度から神奈川県考古学会の役員をお受けいたしました。私は大学で考古専攻と同時に、故岡本勇先生や当会顧問の寺田兼方先生などから『市民参加型の考古学』を学ばせていただきました。新人なので会的事はよく分かりませんが、そこで学んだものを何らかの形で活かしていけるよう努力したいと思っています。よろしく願いいたします。

新しい風に・・・

白勢順子

今回、新たに役員に加えていただきました白勢（しろうせ）と申します。よろしく願いいたします。今回、役員交代に伴い見学会担当の須田英一さんとバトンタッチしました。と言いますのも、私が横浜市から三浦市に転居し、4人の子育て真っ最中のある日、近所の人に「土器洗いをしてみませんか？」と誘われ、三浦市教育委員会の須田さんに出会ったことが、現在の考古おぼさんになるきっかけとなったからでした。早いものであれから12年たちました。

その後、神奈川県考古学会の見学会や講座には、会員になる前から子育ての息抜きに顔を出させていただきました。そして、主催者の方々や講師の先生方がひと

つのことを追い求める一生懸命な姿や、参加者の多くの方々が年齢を重ねてもまだまだ興味を追い求めている姿を拝見していくうちに、私はたくさんの刺激を受けました。年会費3000円で講座や見学会、発表会に会誌や連絡誌も…と、得るものはとても大きいと思います。

さて、6月13日の水曜日に、私にとってはじめての役員会が開かれました。新会長の岡本孝之さん、新副会長の中村若枝さんが自己紹介の中で見せた、にこにことうれしそうな表情の中に、考古学を夢見る少年・少女の姿を見て、今年も何か楽しいことがおこりそう…と私もなんだかワクワクしてきました。そして、夢を夢だけに終わらせるのではなく、各担当の方々が、会誌・連絡誌・講座・見学会・発表会…と、各担当の持ち場を守り、しっかりとした形に作り上げていく様子も感じられ、とても頼もしく思いました。

そのような「思い」は、神奈川県に考古学会を作ろうと準備段階から関わってきた方々、初代会長故日野一郎先生、前会長の寺田兼方先生をはじめとする諸先輩方が、今まで築き上げてきたものなのでしょう。研究者と一般の人とがお互いに刺激しあい、学びあおうと前向きに努力している県考古学会の存在はとても貴重です。

さあ、素敵な出会いの第一歩はまず参加すること。今年はどうのような素敵な出会いがあるのか、今からとても楽しみです。皆様、会場でお会いしましょうね。



連絡誌部会からメーリングリスト開設のお知らせ

ホームページ「考古かながわ」を立ち上げてから3ヶ月余りが経ちました。まだ完全には整っていないページもありますが、1000人を超える訪問者を迎え、鋭意製作に取り組んでいるところです。

さて、そんな中ではありますが、下記のとおり新しくメーリングリストを開設することとなりましたのでお知らせします。

メーリングリスト名 Kokokana

メーリングリストのアドレス kokokana@KoukoKanagawa.net

メーリングリストとは、電子メールアドレスを登録したメンバー全員に対し、同時に電子メールを配信する仕組みです。あるメンバーがリストのアドレスにメールを送信すると、登録メンバー全員にその内容が配信されます。そのメールに返信するかたちでメールを送ると、やはりメンバー全員に内容が配信されます。

これによって、ある話題についてのやり取りの流れをメールとして読むことができ、また発言して話題や議論に参加することもできます。また、当学会からの行事日程のお知らせなどもメールで受け取ることができます。

登録は希望者ご自身が行う仕組みになっています。ホームページトップ→「当サイトについて」の該当部分をよくお読みいただき、「登録申請手続きを行う」のリンク先から振るってご登録ください。

【展示会】

平成18年度 市内遺跡調査出土品速報展示会
 主催 茅ヶ崎市教育委員会・(財)茅ヶ崎市文化振興財団
 日時 2007年11月30日(金)～12月6日(木)
 ただし12月3日(月)は休館
 会場 茅ヶ崎市民文化会館展示室
 問い合わせ先 茅ヶ崎市教育委員会生涯学習課
 電話 0467-82-1111

【遺跡発表会】

第18回 茅ヶ崎市遺跡調査発表会
 主催 茅ヶ崎市教育委員会・(財)茅ヶ崎市文化振興財団
 日時 2007年12月2日(日)
 会場 茅ヶ崎市役所分庁舎 6F コミュニティホール
 定員 200名(入場無料)
 問い合わせ先 茅ヶ崎市教育委員会生涯学習課
 電話 0467-82-1111

【遺跡見学会】

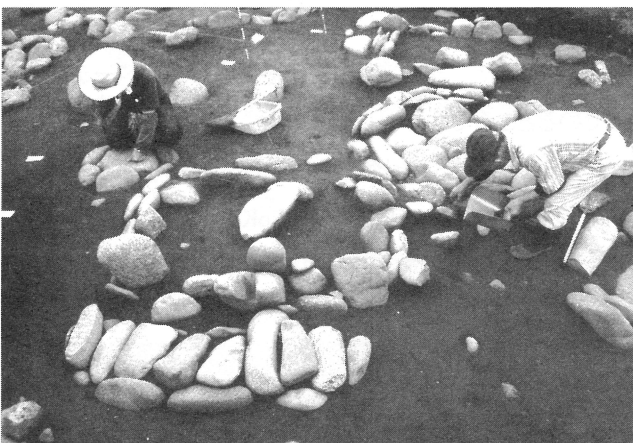
国指定史跡 川尻石器時代遺跡発掘調査現地説明会
 主催 相模原市教育委員会
 日時 2007年10月21日(日)
 午後1時～3時
 会場 相模原市城山町谷ヶ原二丁目地内
 神奈川県企業庁谷ヶ原浄水場東隣
 問い合わせ先 相模原市教育委員会文化財保護課
 電話 042-769-8371

【講座】

国指定史跡 川尻石器時代遺跡 連続講座
 主催 相模原市教育委員会
 会場 相模原市立総合学習センター 大会議室
 定員 200人(申込不要・入場無料)
 史跡 縄文時代中期～後期の集落址

1. 日時 2007年11月25日(日) 午後2時～4時
 講師 御堂島正氏
 内容 川尻遺跡概論・石器実験考古学
2. 日時 2007年12月16日(日) 午後2時～4時
 講師 小林謙一氏
 内容 年代測定・縄文時代中期環状集落
3. 日時 2008年1月20日(日) 午後2時～4時
 講師 柴田 徹氏
 内容 石材選択・石材流通
4. 日時 2008年2月17日(日) 午後2時～4時
 講師 秋田かな子氏
 内容 縄文土器ネットワーク
5. 日時 2008年3月16日(日) 午後2時～4時
 講師 山本暉久氏
 内容 石造遺構・縄文時代後期集落

問い合わせ先 相模原市教育委員会文化財保護課
 電話 042-769-8371



川尻遺跡縄文時代後期の配石墓(平成14年度調査)



考古かながわ 第38号

発行 神奈川県考古学会
 発行日 2007年8月31日
 編集 秋田かな子・中川真人・野口浩史(連絡誌担当)
 印刷 (有)湘南グッド
 発行者 神奈川県考古学会 会長 岡本孝之
 〒252-8520 藤沢市遠藤 5322
 慶應大学 岡本孝之研究室 気付
 郵便振替 00240-9-71208
 e-mail soumu@KoukoKanagawa.net
 URL http://www.KoukoKanagawa.net